造形力の発達とその基盤(3) 5歳児の特徴

八木 純一郎

(白梅学園短期大学)

○海老原 奈子

(白梅学園短期大学附属白梅幼稚園)

〈はじめに〉

造形力の発達を左右する要因(造形基盤)の特徴を明らかにする本研究は、3・4歳児に引き続き行なった。

その研究方法は、基本的に同じであるが、3・4歳児の研究の結果から修正・変更がいくつかある。

造形能力の要素の中の「形体」についての測定方法において、前回は15段階の内容に区切ったが、その後の資料分析の結果、4～5段階の間にひとつ、11～12段階の間にひとつの2段階をプラスして17段階とし、よりとらえやすいようにした。

また、造形基盤の要素の手の技能について、前回ハサミテストを実施したが、今回は、ハサミテストだけでは見るのは困難(ほぼ正確に切るようになったため)となり、他項目と同様、あそびや諸活動の機会に観察していくことにした。記録方法も5段階にし、より詳細に見るようにした。

そして、集団の相乗作用を考察していく上では、対象児8人の中だけで見るとには限界があり、クラス全体として見ていく必要性ができた。

〈目的〉

5歳児の場合の造形力の発達を左右する要因(造形基盤)は何か。

3歳児の特徴としては、「もの」を手がかりにしてから、自分だけのイメージ(種類は少なくても深さが必用)をもつことと、集中・持続力のあることであった。

4歳児の特徴としては、集中・持続力とイメージの深さは、3歳児と同じであるが、「もの」にこだわって取り組む段階から「ひと」から「こと」にこだわって活動するようになる。手E語の種類の多さ、深さは、子どもA表現(イメージ)のタイプで相乗作用し合える集団の境も大切な要因としてあげられる。

5歳児の場合の特徴はどうであろうか。

〈方法〉

1. モデル図と観察対象児の限定

白梅幼稚園 5歳児33名中8名(男4、女4)

2. 対象児8人の造形力(形体<表1>、位置空間<

表2>、色彩<表3>)と基盤となる力(造形基盤の要素<表4>)を記録し、発達を測定する。

3. 造形力の発達と、造形基盤の要素との相関関係を分析考察する。
4. 昭和59年4月～明年2月現在までの期間。

〈結果と考察〉

今回の実践結果による造形力(形体)の発達は、一般的平均レベルより、やや高くなっている。対象児のクラス全体としては、15段階を中心に、14～16段階の分布になっている。それと比べると、対象児8名は、レベルの高い方といえる。

—相関関係について—〈表1・2・3・4参照〉

- ①、集中・持続力のあること、イメージの深さのあること、興味・関心の傾向が「こと」であることは、造形力の発達を左右する条件として、4歳児の場合に引き続きいえる。

Eのび幅の大きいAは、E自身の技術の向上と、集中・持続力がついたためである。

- ②、クラス集団の中の相乗作用の効果が、造形力の発達を左右する要因となっている。

1). Cは手の技能、集中・持続力に欠ける子であるが、造形力が高い結果がでている。ほとんどの他児に集中・持続力がつき、下の子も含めて活動していきける力がついているため、その仲間の影響でもできるようになる。また、材料・用具、構成力、イメージの種類の多さがあるのよ、アイデアを提供しつつ、相手の発想も受け入れやすいので、集中・持続力があっても、活動に十分参加しえる。

2). Gは要素全体が低いが、造形力では高い結果がでている。これは上記①の条件はすべて満たしていることが大きい。また他項目が低いということは、活動の身直しがりもちにくいことにもつながるが、この点は、他児(CDEF)の提供で補うことができず。

3). Dは手の技能を除き、他項目は全て高いのににもかかわらず、造形力では低い結果がでている。これは可能性(表現タイプ)にこだわっているため、造形はツンボリッくであり、それが意味も果たし

<表1 形体>

17		異年齢																		
16		全体での	■		■		■		■	*		■		■						
15		視点統一	*	■																
14		つぎの型		*		■				*		*		*						
13		カドの			*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
12		基準線上の																		
11		基礎線																		
10		カドの並列	●	●						●	●									
9		頭足人	○							●	●									
8		頭足人	○																	
7		十字表現	○							●										
6		放射線	○																	
5		かみ	○																	
4		二重	○																	
3		かみ	○																	
2		うす	○																	
1		かみ	○																	
段階	内容	対象児	A	B	C	D	E	F	G	H										

<表2 位置空間>

			○	●	*	■														
			3歳初	3歳終	4歳終	5歳終														
9	視点統一	遠近			■	■	■	■												
8	視点統一	並列	■																	
7	三次元	扇型	*	■						*		*		*		*		*		
6	三次元	天地並列	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
5	三次元	天地	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
4	三次元	上下並列	○	●																
3	三次元	上下	○	●																
2	三次元	方向	○	●																
1	三次元	かみ	○	●																
段階	内容	対象児	A	B	C	D	E	F	G	H										

てしまう。そのために形体は着われにくくなる。しかし、要素は十分にも、2いるので、子ども同様の理解もでき、手を受け入れることもできる。また活動の見直しも十分も2いるので、クラスの中では、リーダー的存在となり、重要な位置にいる。

<まとめ>

造形力の基礎として、3つにまとめられる。

- ①. 個人の能力として、集中、持続力とイメージの深さがあり、「こと」にこだわること。
- ②. 集団の相乗作用。
- ③. 相乗作用がおこりうる保育形態、内容(各々の)

<表3 色彩>

4. 造形力	7																			
3. 造形力	6																			
2. 造形力	5		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
1. 造形力	4		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	3		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2																			
	1																			
段階	内容	対象児	A	B	C	D	E	F	G	H										

<表4 造形基礎の要素>

① 手の技能	② 材料の活用	③ 構成力	④ イメージ力	⑤ 表現力	⑥ 表現力
巧みさ	多量	多量	多量	多量	多量
巧みさ	多量	多量	多量	多量	多量
A					
B					
C					
D					
E					
F					
G					
H					

子どもの意をきかされたせ、仲間と組みあわせるような指導。目的的な活動を組み、見直しをも、2取り組めるようにする。) 造形基礎の要素の各項目の記録の客観性について2は課題として残、2いる。